

学生支援サミット 2019 実施報告書

三重大学 学生総合支援センター



目次

1. はじめに … p.3

2. 学生支援サミット 2019 概要 … p.4

- 趣旨
- 目的
- テーマ・内容
- 主催
- 日時・場所
- 参加申込者
- 当日のプログラム
- 当日のグループワーク
- 投票方法
- 必要備品
- その他
- 会場の配置図（三重大学講堂 小ホール）

3. 当日の参加状況 … p.7

- 学生・教員・職員の参加状況
- 当日のグループ構成

4. 当日の流れ … p.8

- 進行スライド

5. グループ発表 … p.12

- 投票結果
- 各グループのアイデア

6. 事後アンケート表 … p.23

- 実施の手続き
- 満足度
- キャリア発達や将来を考える上で、どの程度役に立ったか
- グループでの話し合いの中で印象に残った内容
- 感想など

○学生支援サミットで今後取り上げてほしいテーマ

7. 資料 …… p.28

○学生支援サミット 2019 ポスター

○表彰状

○三重大学ホームページ トピックス掲載記事

1. はじめに

三重大学では、「学生支援サミット」と名付けたイベントを毎年開催しています。これは、今後の三重大学の学生支援のあり方に関するビジョンを、学生、教員、職員がともに描き、共有し、それに基づいて三重大学の今後の学生支援のあり方を検討する目的で、平成24年度より始まりました。毎回、テーマを設定し、参加者はグループに分かれて意見を出し合い、それを全員で共有します。

本年度の「学生支援サミット 2019」は、サブタイトルに「三重大学を駆け抜けて「自分」をつくるために」を掲げ、社会で活躍する人材になるための自分のつくり方やそのプロセスについて検討するためにサミットを開催しました。議論のテーマを『社会で活躍する三重大生のキャリア発達』とし、社会で活躍できる人材になるための大学生活のあり方やそのプロセスについて、学生と教職員が協働してディスカッションを行い、アイデアの発表を行いました。本報告書は、この活動と成果をまとめたものです。

サミットによって出された、三重大生のキャリア発達に関するアイデアを多くの方に知っていただき、学生生活環境の充実をはじめ、三重大学の発展の寄与につながる資料としてご覧いただけることを心よりお願い申し上げます。

また最後となりますが、学生支援サミットの企画・運営に関わりご協力を頂いた皆さま、当日参加し貴重なアイデアを出して頂いた学生・教職員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

学生総合支援センター

2. 学生支援サミット 2019 概要

○ 趣旨

年に一度、三重大大学の学生・教員・職員がともに大学をより良いものとして行くために協働して議論を行う機会として開催している。本年度は、サブタイトルに「三重大大学を駆け抜けて「自分」をつくるために」を掲げ、社会で活躍する人材になるための自分のつくり方やそのプロセスについて検討するためにサミットを開催した。

○ 目的

- ①三重大生のキャリア発達について、学生と教職員が主体的に検討する機会とする。（三重大生のキャリア発達に対する主体的な検討）。
- ②大学での学修や生活をより生き活きとした望ましいものにできるよう、学生と教職員が協働する意識を育む（協働の機会）。
- ③社会の中で活躍する「自分」をつくるために必要なものやその発達プロセスを検討することを通じて、『三重大大学キャリアパスモデル（仮称）』を創造する機会とする（『三重大大学キャリアパスモデル（仮称）』を創造する機会）。

○ テーマ・内容

『社会で活躍する三重大生のキャリア発達』を今年度のテーマとした。まず、大学生という発達段階及び発達課題、三重大生を取り巻く環境（授業や課外活動、人間関係、教育目標「4つの力」）、今後のキャリア教育等について概説した。それらの予備知識や自身の経験・考えを活かしながら、在学中・卒業後に社会の中で活躍できる「自分」をつくるために必要な環境やイベント、それらからどういう「自分」が作り上げられるか、等をまとめたプロセスを図（モデル）化させた。その中で、「こういう機会や環境があればよい」といったような、大学側からの提供が望まれるものがあれば、それらも提案としてモデルに加えることとした。

それらのモデルを各グループの『三重大大学キャリアパスモデル（仮称）』として、学生と教職員が協働して作成した。グループでまとめたモデルは順番にプレゼンテーションを行い、参加者全体での吟味を行った。

○ 主催

三重大大学 学生総合支援センター

○ 日時・場所

令和元年 7月 3日（水） 13:30 ～ 16:00 三重大大学講堂 小ホール

○ 参加申込者

学生については、講義やクラブサークル連絡会、キャリア支援センター等を通して参加者を募集した結果、合計 58 名から参加の申込があった。教員については、各学部から 2 名の参加を依頼した結果、計 10 名がエントリーした。職員については、学生支援チームより依頼を行い、計 11 名がエントリーした。

グループは、所属学部等の参加学生の属性を考慮し、全 10 グループを編成した。

○ 当日のプログラム

13:10～13:30 (20分)	受付
13:30～13:40 (10分)	開会の挨拶 三重大学学長 駒田美弘
13:40～13:50 (10分)	学生支援サミットの活動内容の説明
13:50～13:55 (5分)	グループで自己紹介(名前、所属等)
13:55～14:55 (60分)	グループワーク(在学中・卒業後に社会の中で活躍できる「自分」をつくるために必要な環境やイベント、それらからどういう「自分」が作り上げられるか、大学側からの提供が望まれるもの等をまとめて、三重大生のキャリア発達のプロセスを『三重大学キャリアパスモデル(仮称)』として図(モデル)化させた。)
14:55～15:45 (50分)	各グループのプレゼンテーションと質疑応答(5分×10グループ) + 最優秀プレゼングループの投票用紙の回収
15:45～15:55 (10分)	最優秀プレゼングループの発表 + 受賞グループ代表者の一言
15:55～16:00 (5分)	閉会の挨拶 学生総合支援センター長 野崎哲哉

○ 当日のグループワーク

各グループにイーゼルパッドの用紙 2 枚程度を配布した。検討した図(モデル)は、イーゼルパッドの用紙に油性ペン等を使ってまとめた。発表は、イーゼルパッドにまとめた図(モデル)を発表用のボードに掲示し、プレゼンテーションを行った。

○ 投票方法

Google フォームにて投票を行った。当日は投票時に QR コードを提示し、各自投票フォームにアクセス、投票させた。また、アクセスできない参加者のために紙媒体での投票用紙も用意、実施した。

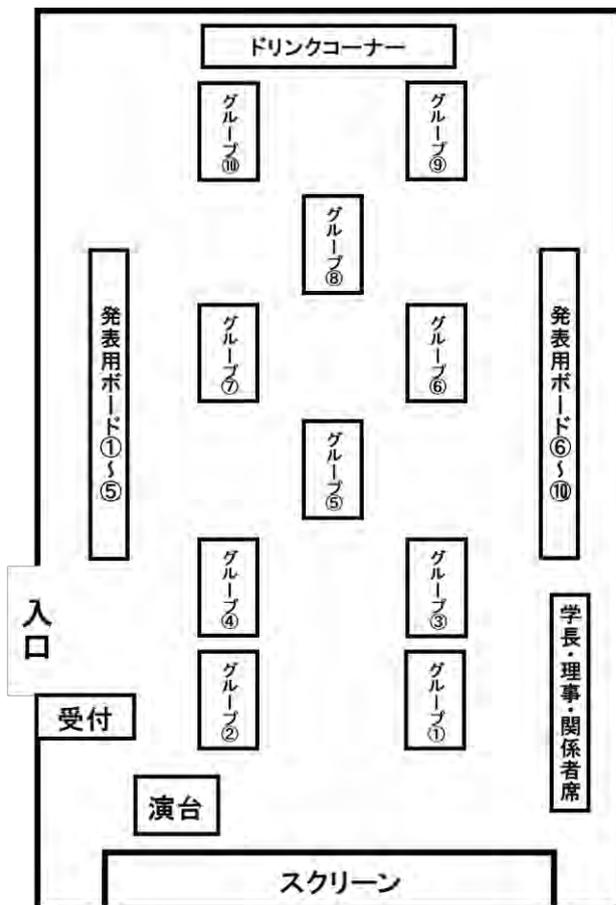
○ 必要備品

イーゼルパッド紙 2 枚(発表用) × 10、多色油性ペン × 10、メモ用紙 10 枚程度 × 10、筆記用ボールペン 3 本 × 10、ネームホルダー・名札 × 人数分、賞状、参加賞 × 人数分

○ その他

カフェサークル Le Lien に協力を要請し、アイスコーヒー、アイスティーを提供した。

○ 会場の配置図(三重大学講堂 小ホール)



3. 当日の参加状況

○ 学生・教員・職員の参加状況

学生支援サミット当日の参加者数は、学生 52 名、教員 19 名、職員 19 名の、計 90 名であった（表 1）。参加学生の学部内訳は表 2 にまとめた。

○ 当日のグループ構成

当日のグループは、参加学生の属性等を考慮し、以下の全 10 グループを編成した。

グループ①：人文学部グループ（学生 6 名、教職員 2 名）

グループ②：人文学部グループ（学生 5 名、教職員 2 名）

グループ③：人文学部グループ（学生 6 名、教職員 2 名）

グループ④：人文学部グループ（学生 6 名、教職員 2 名）

グループ⑤：専門職養成学部（教育学部＋医学部）グループ（学生 4 名、教職員 2 名）

グループ⑥：専門職養成学部（教育学部＋医学部）グループ（学生 5 名、教職員 2 名）

グループ⑦：理系学部（工学部＋生物資源学部）グループ（学生 5 名、教職員 2 名）

グループ⑧：ピアサポーターグループ（学生 5 名、教職員 2 名）

グループ⑨：課外活動グループ（学生 5 名、教職員 2 名）

グループ⑩：課外活動グループ（学生 5 名、教職員 2 名）

表1 学生支援サミット2019参加者数

属性	参加者数
学生	52名
教員	19名
職員	19名
合計	90名

表2 参加学生の内訳

学部	参加者数
人文学部・人文社会科学研究科	29名
教育学部・教育学研究科	8名
医学部・医学系研究科	3名
工学部・工学研究科	6名
生物資源学部・生物資源学研究科	6名
合計	57名

4. 当日の流れ

○ 進行スライド

当日は以下のスライドの通りに進行を行った。



学生支援サミット2019
～三重大学を駆け抜けて「自分」をつくるために～

テーマ:『社会で活躍する三重大生のキャリア発達』

7月3日(水) 13:30～16:00
三重大学講堂 小ホール

主催: 三重大学 学生総合支援センター



開会の挨拶

三重大学学長 駒田 美弘



プログラム

13:30～13:35 開会の挨拶
13:35～13:45 学生支援サミットの内容説明、課題テーマの発表
13:45～14:50 グループワーク
14:50～15:40 各グループの発表と質問タイム
15:40～15:55 ベストグループ賞の投票と表彰
15:55～16:00 閉会の挨拶

会場後方には、カフェサークル「Le Lien(ルリアン)」さんからのご協力で、美味しい本格的なコーヒー、紅茶をご用意いただいています！グループワーク中などにご利用ください。



学生支援サミットの説明、課題テーマの発表

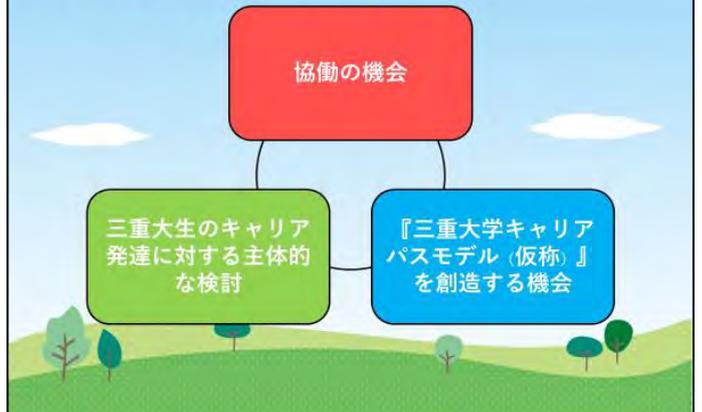
学生総合支援センター
障がい学生支援室 風間 惇希

学生支援サミットとは？

- ▶ 年に一度開催される、学生・教員・職員がともに三重大を良くしていくために議論を行うイベント。
- ▶ 今年度のテーマは、
『**社会で活躍する三重大生のキャリア発達**』

本サミットにて出された活動や仕組みに関するアイデアは、大学や学生による活動などの実践につなげ活用していきます。

学生支援サミットの目的



三重大大学キャリア教育方針

1. 三重大大学キャリア教育・グランドデザイン

三重大大学は、多様に変化に富む社会に適應する社会的・職業的自立と人格の形成を生涯にわたって培う教育を三重大大学キャリア教育と称し、これを実践する。

三重大大学では、正課としての教養教育と専門教育、並びに教育的インターンシップと課外活動の充実を図ることで、三重大大学キャリア教育の実施体制を確立し、学生が自主性、自立性、創造性及び高い専門性を備え、地域に貢献できる能力の形成を目指すとともに、「生きる力」を修得し、これを活用できる能力の確保を目標とする。

2. 三重大大学キャリア教育・ポリシー

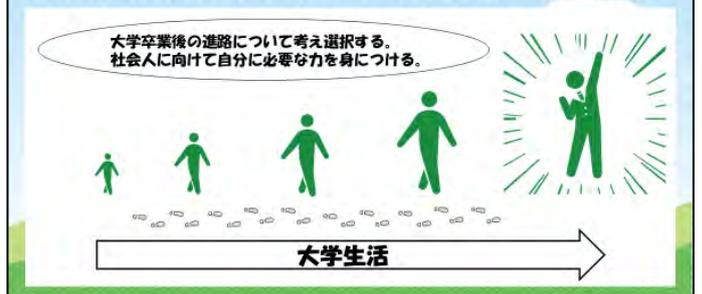
三重大大学は、教育目標及び3つのポリシーと関連しつつ、学内全ての部署が有機的に連動して、**生涯にわたって利活用可能なキャリアの形成及びコンピテンシーの涵養に役立つ教育プログラムを開発し、実行する。**

3. 三重大大学キャリア教育・支援方針

三重大大学の全構成員は、学生のキャリアを形成させる力が三重大大学キャリア教育にあると認識する。**全構成員が一体となり、キャリア形成及び発達のための教育のあり方を検討し、学生の潜在能力及び顕在能力の双方の発達に有効な正課のカリキュラム、教育的インターンシップ及び課外の活動方針を立案し、実行する。**また、三重大大学キャリア教育の実行可能性と効果を高めるために、三重大大学の教育資源及び研究資源を利用して、多様な支援方法を企画・検討し、実行する。

「キャリア発達」とは

- ▶ “**進路を探索・選択すること、またその進路に適應していくために必要な知識・認識・能力・態度・行動様式などを成長、発達させること**” 若松(2006)を一部改訂



大学生期と昨今の状況

従来の大学生期(鶴田, 2001)

	入学期(1年生)	中期(2,3年生)	卒業期(4年生)	大学院生期
特徴	今まで慣れ親しんだ生活から離れ、新しい学生生活へと移行する時期。	生活上の変化が比較的落ち着いている時期。学生生活を展開して自分らしさを追求することが課題となり、将来に向けた選択が近づいてくる。	学生生活を終えて社会生活へと移行する時期。将来への準備をする時期。友人や大学生活からの別れを前に、心の整理やまとめを行う。	最終的に学生生活を終える時期。職業人としての自己を形成する時期。
主な発達課題	大学のカリキュラムへの適応 ・自分の関心領域の選択 ・大学への所属感をもつ ・入学後の目標の設定 ・新しい生活、対人関係の展開	・関心領域を定める ・研究室の選択、将来の進路選択への準備 ・自分らしい学生生活や対人関係の展開	・卒業研究の執筆 ・卒業後の進路の選択 ・卒業生活のまとめ、卒業に伴う友人や先生、後輩などとの離別	・研究への集中、完成 ・修了後の進路決定 ・研究室への適応
キャリア教育上の課題	キャリア発達が生涯にわたることを理解し、大学4年間の生活設計とキャリアに関する視野を広げる	自己分析やキャリア教育上の体験を通して、自分と将来のキャリアの関係について検討する。後半ではライフプランニングという視点をもって自分のライフスタイルも検討する。	自分のキャリアプランニングと職業を結び付け、卒業後の進路を具体的に検討、決定していく	大学院での研究分野と卒業後の研究分野との関係を検討し、将来の進路を決定していく

- ・各学部や個人によって状況や発達度は違う。
- ・就職に向けた動きがどんどん前倒しになっている！ etc...

⇒今の三重大生は、**社会で活躍できる人材を目指してどのようにキャリア発達や自己形成をしているのか？また、どのようなプロセスが望ましいのか？→参考や目標になるものを！**

グループワークの課題テーマ

『**三重大大学キャリアパスモデル(仮称)**』の創造を目指した**第一歩！**

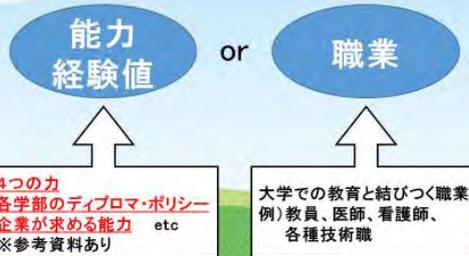
課題：

社会で活躍できる人材になるための大学生生活(プロセス)を、絵や文章を使って図(モデル)にしてみよう！

※『キャリアパス』：将来の目標に到達するための一連のプロセス。大学におけるキャリアパスとは、「大学生生活(学修、人間関係、課外活動など)を通して、社会の中で活躍する「自分」(あるいは能力など)を形成するための具体的なプロセス」と定義する。

課題に取り組む際のポイント①

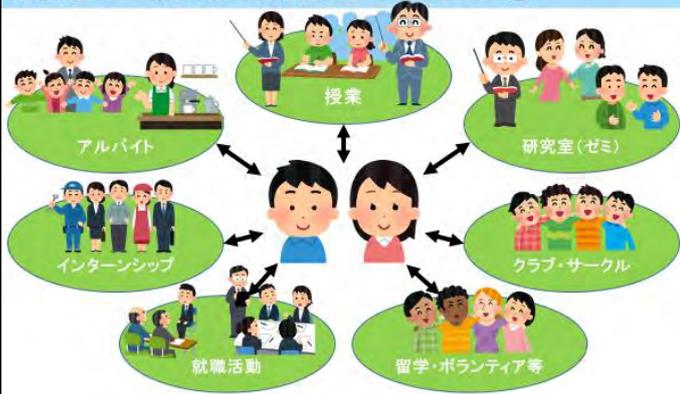
- 「社会で活躍できる人材」(ゴール、目標)に何を設定するか。



課題に取り組む際のポイント②

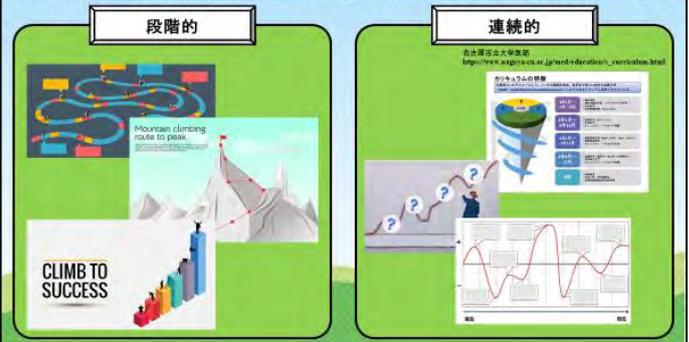
- その能力や知識、専門性が、
どこで、どのように発達したり形作られるのかを
意識した図が○。
- また、キャリア発達のために「**こんなイベントや出
来事、環境があればいいなあ**」といった**希望
や願望**などに関する**アイデア**があれば、それも
加える！

課題に取り組む際のポイント②



課題に取り組む際のポイント③

- 大学生活のプロセスをどのように表現するか。



グループワークの内容

- 自己紹介
- 社会で活躍できる人材になるための大学生活(プロセス)について、絵や文章を使って図(モデル)にする
グループで考えた図(モデル)は、模造紙にマジックペンなどを使って描く。
- グループ①から順にプレゼン！
(目安: 2,3分の発表+質疑応答)
発表用のボードに模造紙を貼ってプレゼンをおこなう。
※離れた方が見やすいよう、プレゼンに使う図を撮影したものを前方のスクリーンにも映します。

グループ
ディスカッション

ベストグループ賞の投票

- 各グループに発表を行っていただき、その後、皆さまに「発表内容が最も魅力的だったグループ」について、Googleアンケート上で投票していただきます。
- すべてのグループの発表が終わった後にアナウンスしますので、下記のQRコードから投票フォームにアクセスし、投票を行ってください。
- 投票フォームにアクセスできない方は、紙の投票用紙も用意してあります。
- ベストグループ賞に表彰されたグループには、表彰状と副賞を準備しています。

入賞を目指した活発な議論とプレゼンを期待しています！



グループワーク (13:45~15:10)

グループ発表 & 質疑応答

ベストグループ賞の投票

- ▶ 各グループに発表を行っていただき、その後、皆さまに「発表内容が最も魅力的だったグループ」について、Googleアンケート上で投票していただきます。
- ▶ すべてのグループの発表が終わった後にアナウンスしますので、下記のQRコードから投票フォームにアクセスし、投票を行ってください。
- ▶ 投票フォームにアクセスできない方は、紙の投票用紙も用意してあります。
- ▶ ベストグループ賞に表彰されたグループには、表彰状と副賞を準備しています。



ベストグループ賞の 投票と表彰 +表彰グループからの一言

閉会の挨拶

三重大学副学長
学生総合支援センター長 野崎 哲哉

多くの方のご参加とアイデア
をいただき、誠にありがとうございました。

5. グループ発表

○ 投票結果

『社会で活躍する三重大生のキャリア発達』をテーマに、社会の中で活躍できる「自分」をつくるために必要な環境やイベント、それらからどういう「自分」が作り上げられるか、等をまとめたプロセスの図（モデル）化について、学生・教員・職員がディスカッションを行い検討した。

全 10 グループそれぞれが作成した図（モデル）についてプレゼンテーションを行い、どのグループのアイデアが最も魅力的であったかについて、参加した学生・教員・職員に投票を行った。

投票の結果、グループ⑧（ピアサポーターグループ）が得票数 25（得票率 33.8%）となり、ベストグループに選出された。次いで、グループ⑤（専門職養成学部（教育学部+医学部）グループ）が得票数 12（得票率 16.2%）、グループ⑩（課外活動グループ）が得票数 8（得票率 10.8%）であった。

表3 各グループの得票数及び得票率

	得票数	得票率
グループ①	6	8.1%
グループ②	6	8.1%
グループ③	5	6.8%
グループ④	2	2.7%
グループ⑤	12	16.2%
グループ⑥	4	5.4%
グループ⑦	2	2.7%
グループ⑧	25	33.8%
グループ⑨	4	5.4%
グループ⑩	8	10.8%

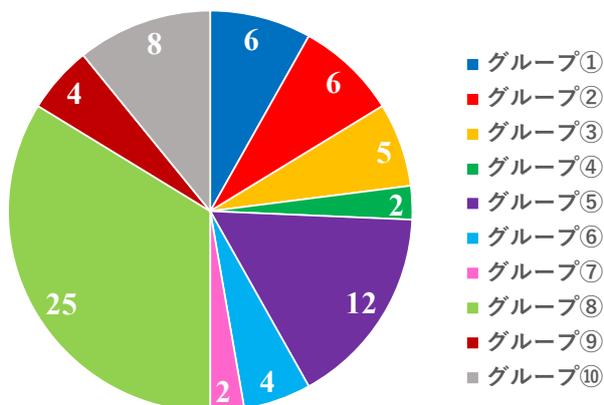
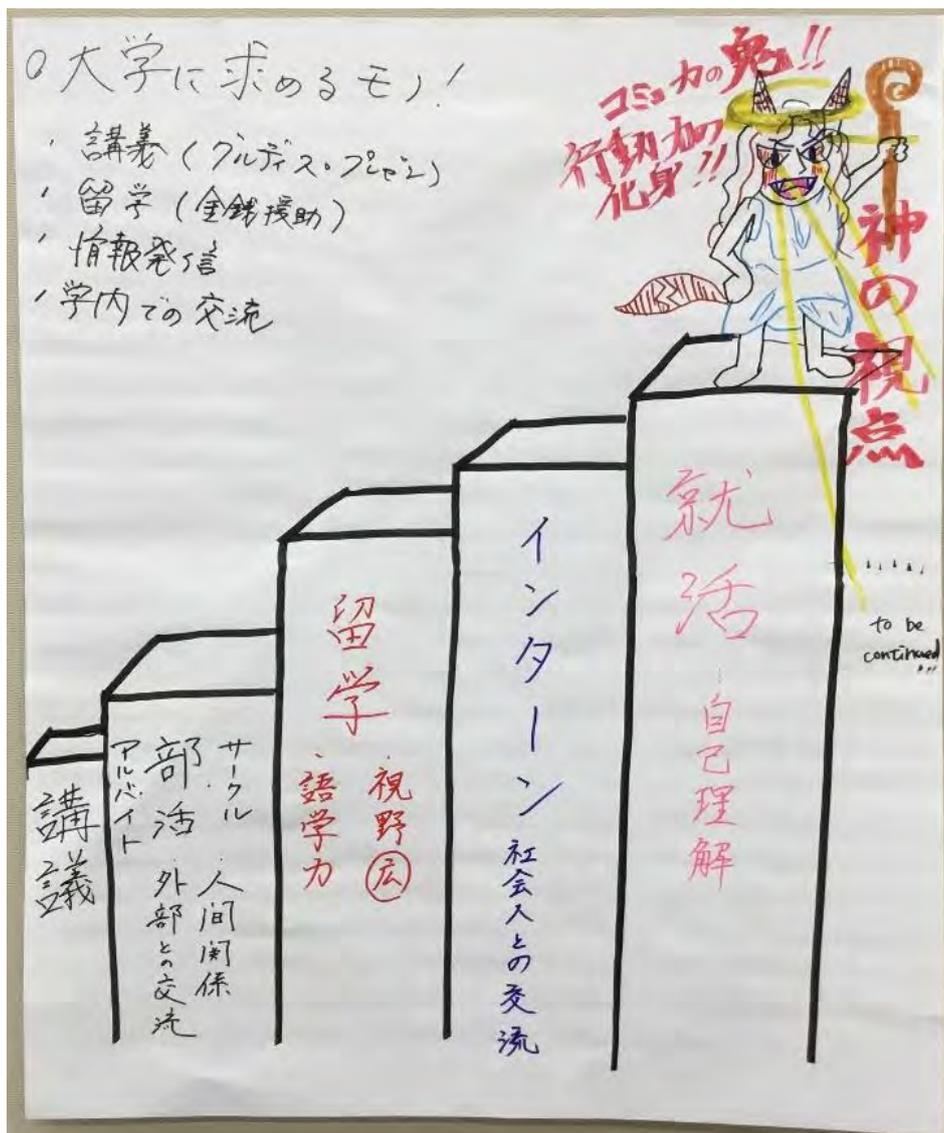


図1 各グループの得票結果

○ 各グループのアイデア

【グループ①:人文学部グループ】

大学入学以降、様々なイベントを通して能力をステップアップ的に育てていき、最終的にコミュニケーション能力や行動力のある人材へと発達していくモデル。その過程で、大学にはコミュニケーション能力等を養える講義の提供や充実した留学制度、交流イベント等の提供をしてもらいたい。



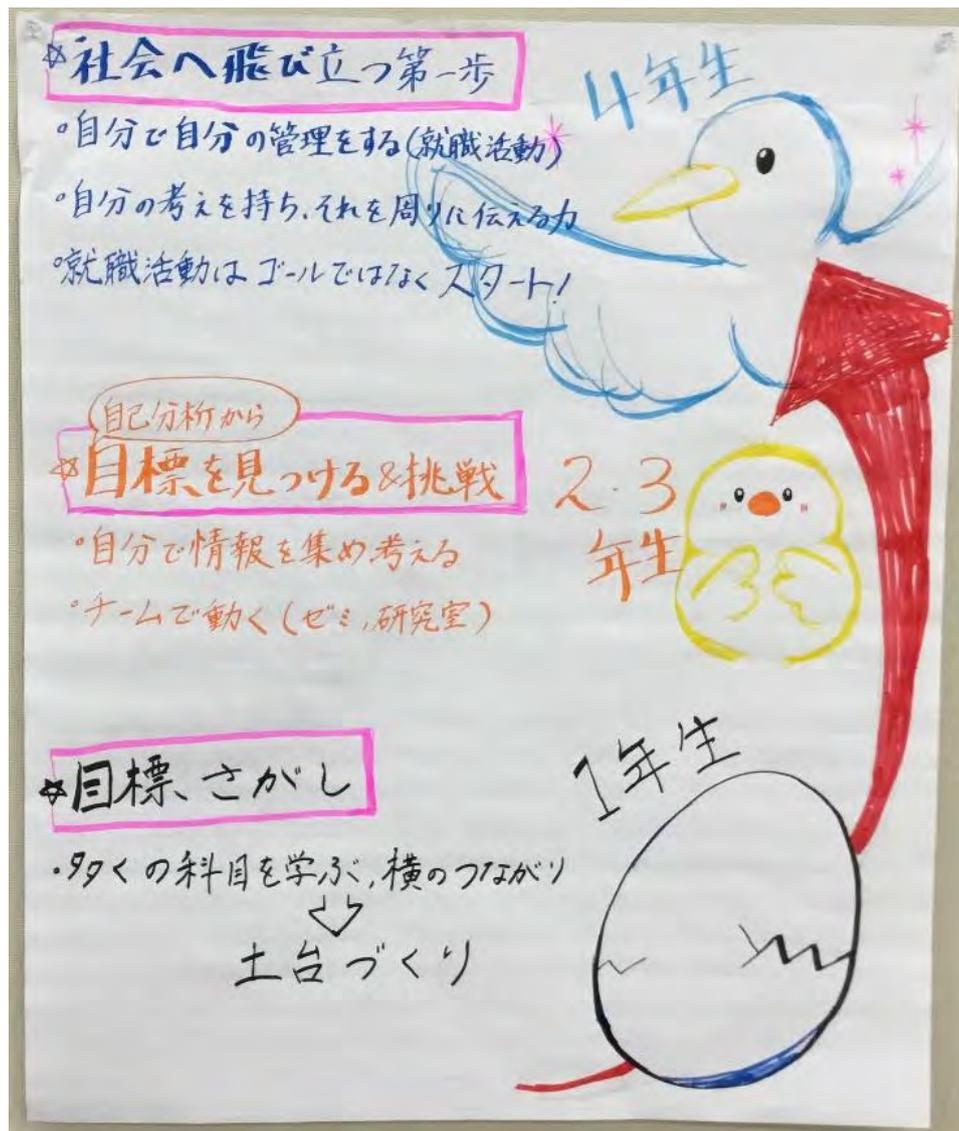
【グループ②:人文学部グループ】

大学生活における様々な環境（講義や学内外での活動）での学びや経験を通して、社会で活躍するための能力としての継続力や協調性、主体性、人間性、公共性を身につけるプロセスを木のなる木で表現したモデル。大学には、学生が（潜在）能力を身につけられるような授業やイベントの提供をしてもらいたい。



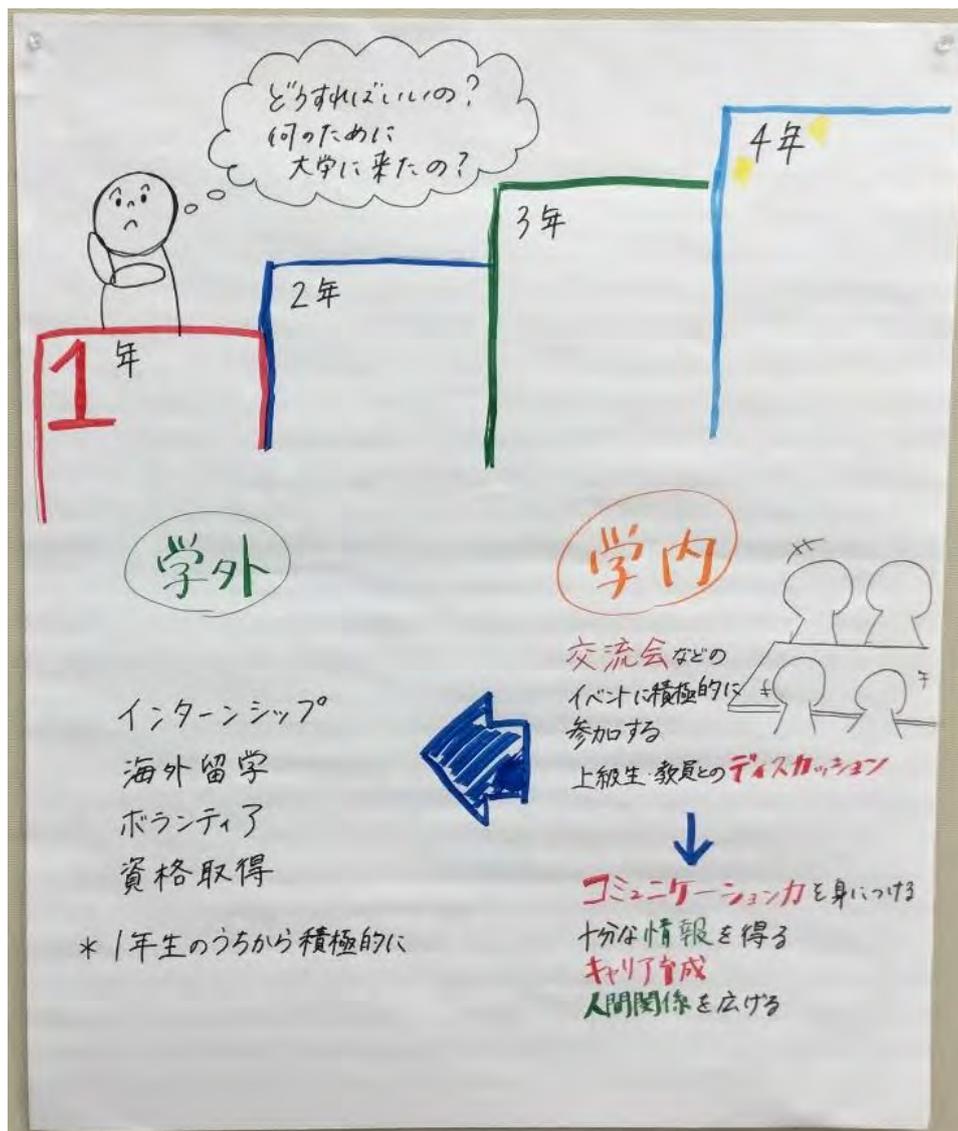
【グループ③:人文学部グループ】

目標さがしの1年生、目標を見つけて挑戦する時期の2・3年生、社会で活躍するために必要な能力を身につけ、社会へ飛び立つ第一歩目の時期にあたる4年生を経て、社会に出ていくというプロセスを飛び立つ鳥の成長で表現したモデル。大学には、学生が将来に向けての目標の探索・選択に対するサポートをしてもらいたい。



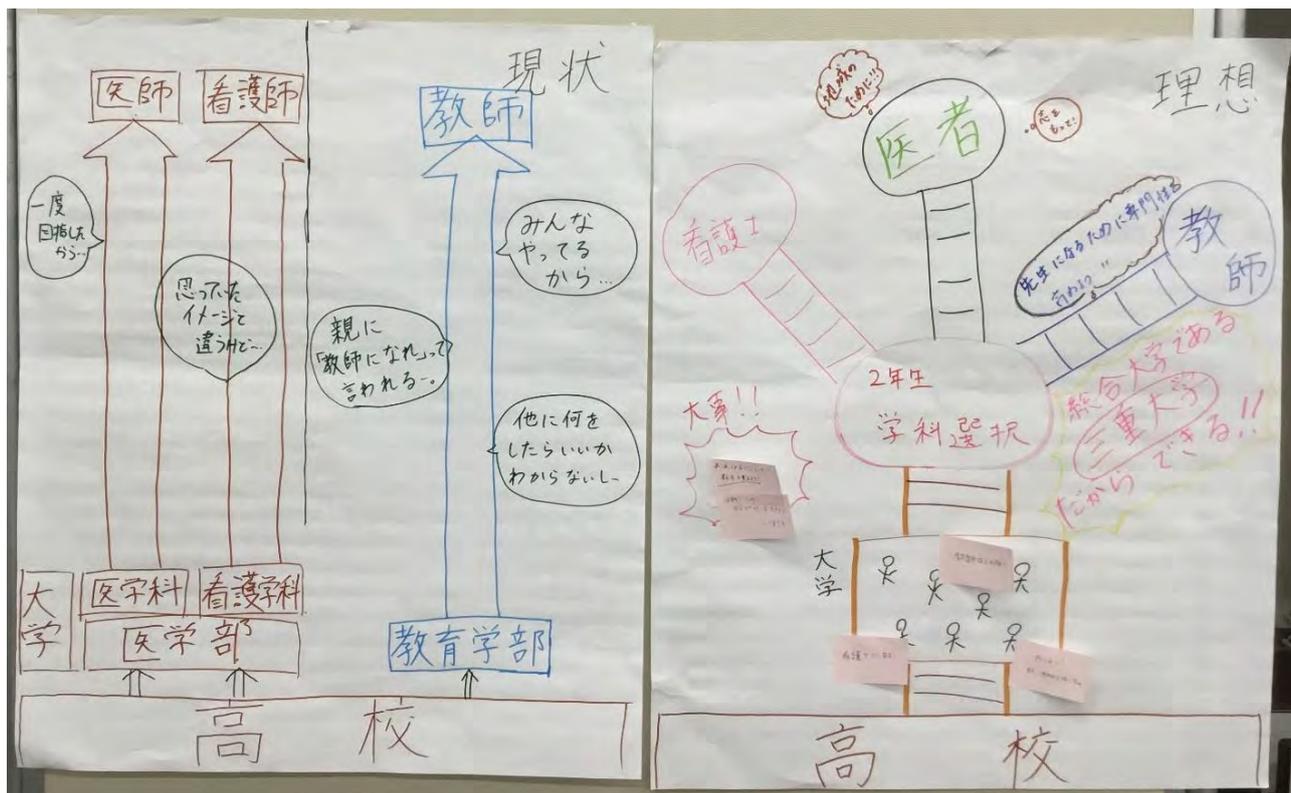
【グループ④:人文学部グループ】

自分の将来や大学での目的を見つけるために、学内での交流イベント等への参加を通してコミュニケーション能力や情報収集、人とのつながりを作り、続いて学外でのインターンシップや留学、ボランティア等に積極的に参加していくというプロセスをモデル化したもの。大学には、コミュニケーション能力や情報収集のための交流の機会を作ってもらいたい。



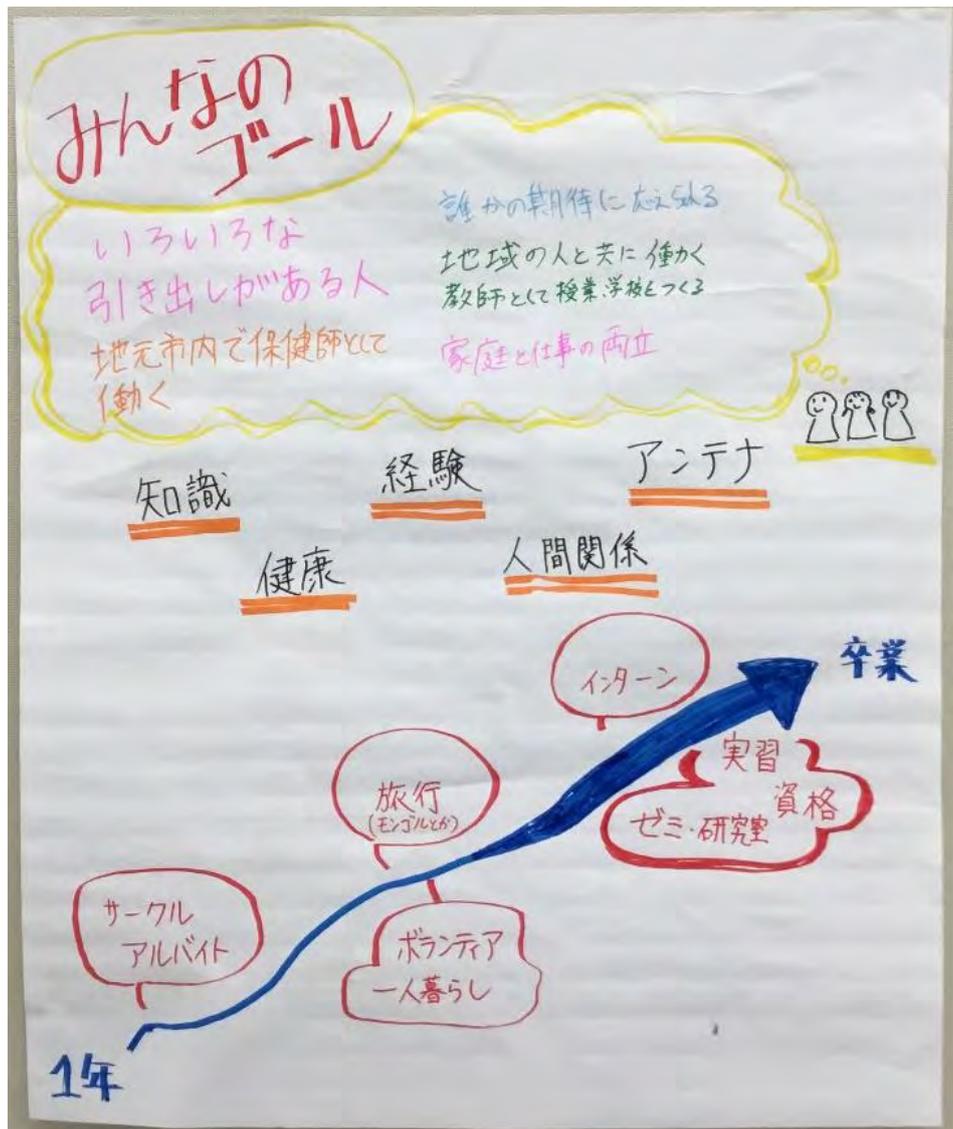
【グループ⑤: 専門職養成学部(教育学部+医学部)グループ】

あらかじめ進路が決まっている現状と比較する形での理想をモデル化したもの。「これしかない」という進路への考えを変えることが大事であるとし、総合大学であることを活かしながら、1年生で基礎知識の習得や進路について考え、2年生で学科選択できる制度ができれば、学生個人にあった進路に進むことができる。



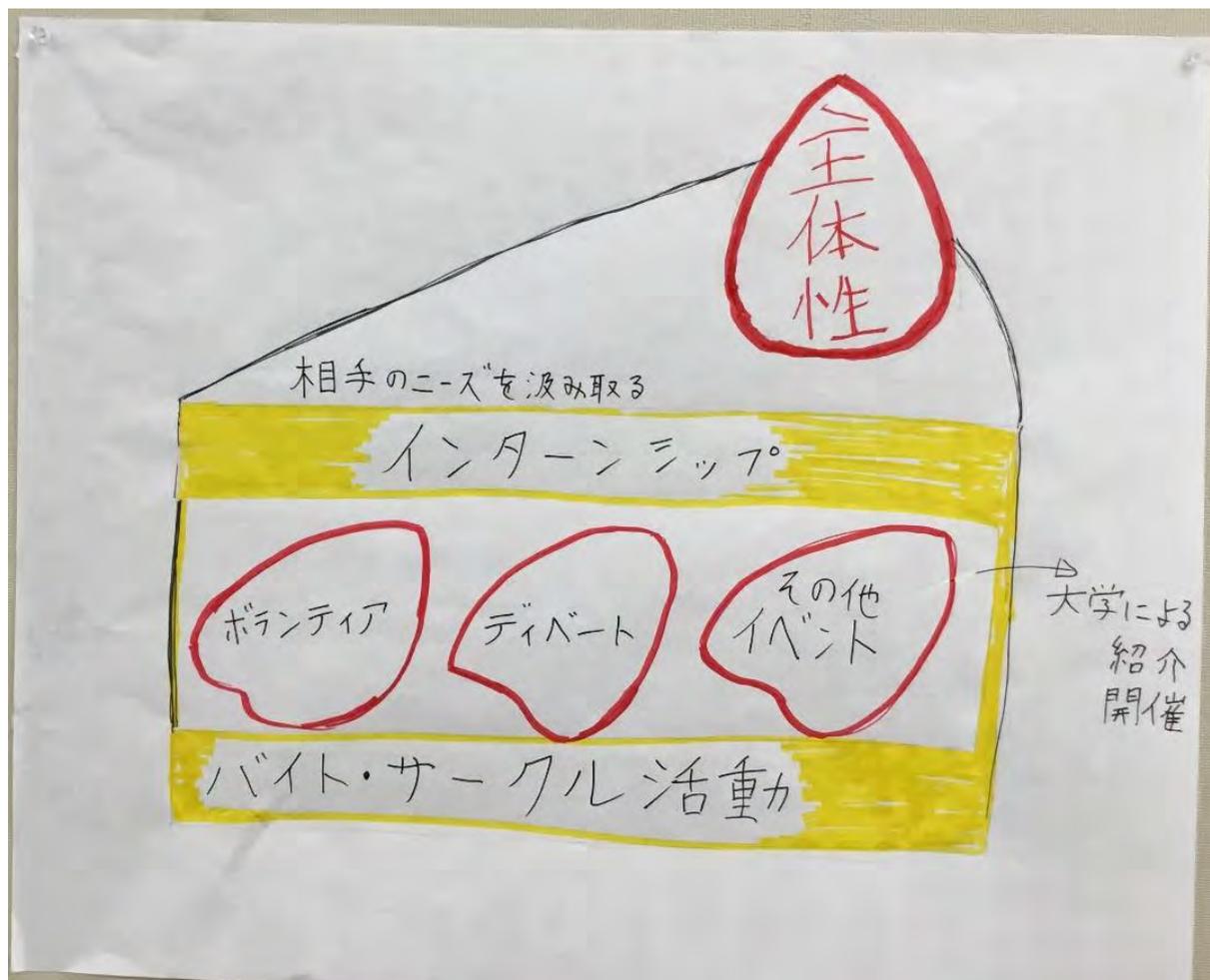
【グループ⑥: 専門職養成学部(教育学部+医学部)グループ】

学生一人ひとりが描くゴール(目標)やその達成のために必要な要素(知識や経験、健康、人間関係、アンテナ)が、大学生活の様々なイベントを通して形成されるというモデル。大学には、将来に向けてどんな選択肢があるかを知る機会を提供してもらいたい。



【グループ⑦:理系学部(工学部+生物資源学部)グループ】

アルバイトやサークル活動、社会と関わる機会となるインターンシップをスポンジ、ボランティアやディベート、進路についての学内イベントへの参加やその中で得たものを中身のイチゴ、その上に主体性としてのイチゴが乗る形で、社会で活躍できる人材を表現したモデル。大学には、重要となる主体性を育むイベントの開催をしてもらいたい。



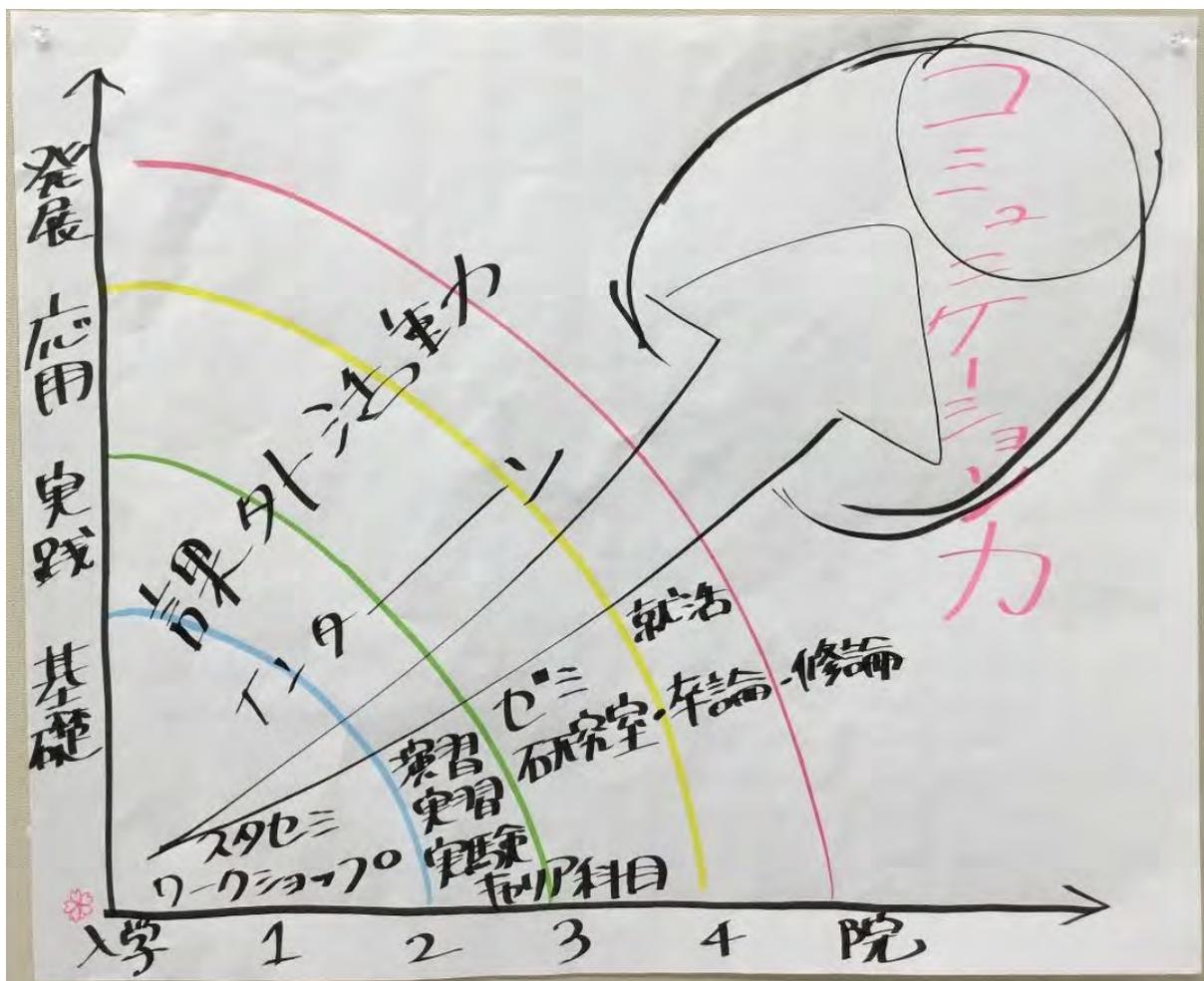
【グループ⑧:ピアサポーターグループ】

大学生活を通した様々なものの中から好きな事を見つけ、好きな事を通して将来に役立つ能力や資源を实らせていくというプロセスを木で表現したモデル。成長・実現を遂げると実が落ち、それが新たな環境作りのための栄養となるというサイクルも表現している。



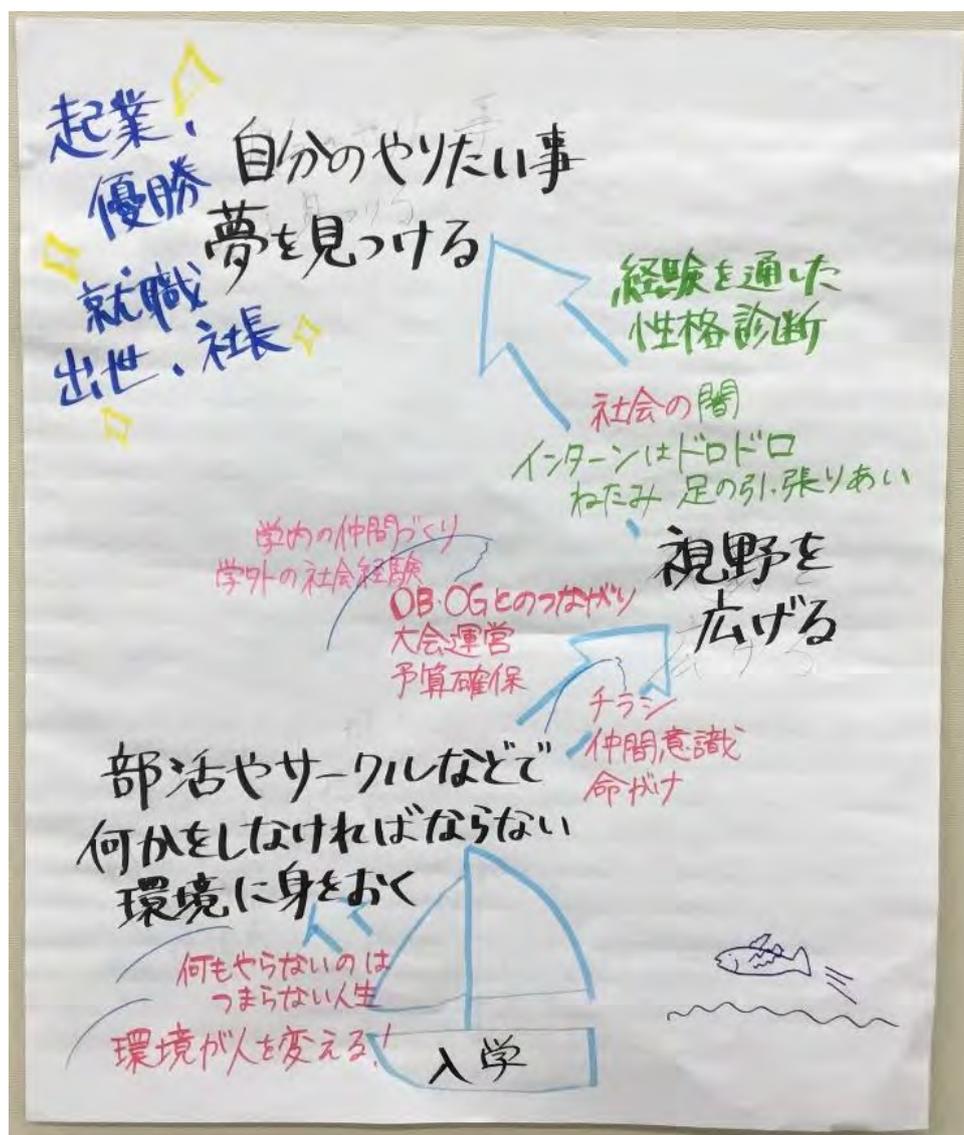
【グループ⑨: 課外活動グループ】

IT化が進む中で、人間しかできないこととしてコミュニケーション力を挙げ、それを発達させるプロセスをモデル化した。基礎・実践・応用・発展の4つのレベルに分けられる学内の活動、そして能力を伸ばす機会としてのインターンシップを通してコミュニケーション力を発達させていく。キャリア教育は、個人が何を伸ばすか、何を選択するかを学ぶ機会である。大学には、コミュニケーション能力の育成の焦点化した授業を行うことで、色々な人と関わる機会を作ってもらいたい。



【グループ⑩:課外活動グループ】

環境が人を変えると考えるのもと、入学してから部活・サークル等の何かをしなければならぬ環境に身を置くことを提案。そこで人間関係のつながりや運営活動を行うことで様々な能力を身につけたり視野を広げることができる。それらを踏まえた上でインターンシップ等に参加し、将来に向けた様々な学びを得ることができ、延いては自分のやりたいことや夢を見つけて社会で活躍することができる。それらのプロセスをモデル化したもの。大学には、課外活動と正課活動が両立できるような雰囲気作りをしてもらいたい。



6. 事後アンケート

○ 実施の手続き

後日、Google フォームで作成した事後アンケートを実施した。参加学生 31 名からの回答を得た。

○ 満足度

アンケートの結果、「とても満足した」と回答した者が 16 名 (51.6%)、「やや満足した」と回答した者が 14 名 (45.2%)、「どちらともいえない」と回答した者は 1 名 (3.2%) だった。

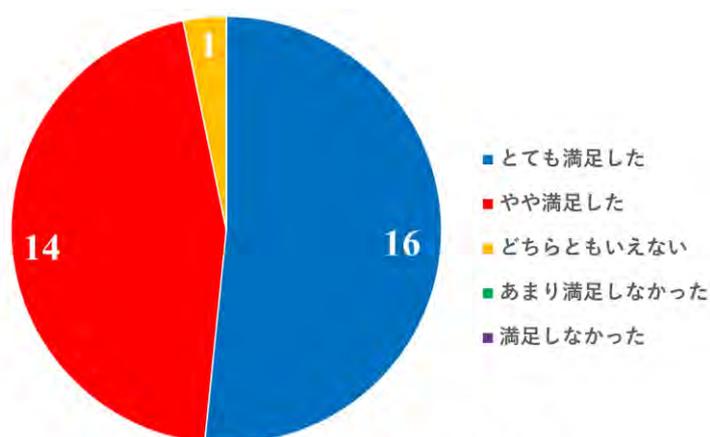


図2 学生支援サミット2019の満足度

○ キャリア発達や将来を考える上で、どの程度役に立ったか

「学生支援サミット 2019 は、あなたのキャリア発達や将来を考える上で、どの程度役に立ちましたか？」との質問に対して、「とても役に立った」と回答した者は 9 名 (29.0%)、「やや役に立った」と回答した者は 18 名 (58.1%)、「どちらともいえない」と回答した者は 3 名 (9.7%)、「あまり役に立たなかった」と回答した者は 1 名 (3.2%) だった。

また、「どちらともいえない」または「あまり役に立たなかった」と回答した理由として、『キャリア科目の授業でやってきたこととほぼ同じ内容のため、思い出す程度の役割にはなっただと思います。』や『自分の進路を考える上では、新たな視点を獲得できなかった。』との回答があった。

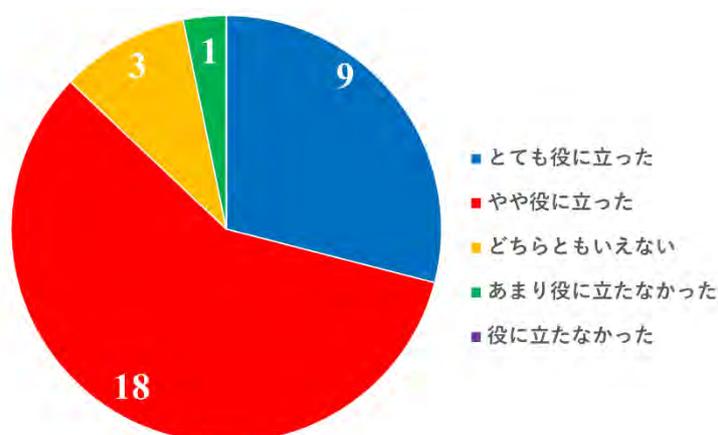


図3 キャリア発達や将来を考える上で、どの程度役に立ったか

○ グループでの話し合いの中で印象に残った内容

- ・先生が進めてルールを敷いてくれた
- ・1年生が4年生の自分から大学生活の情報を吸収していたことから、他学年との交流の重要性に気付いた。
- ・キャリアは、大学一年生から様々な体験から生まれる
- ・学部1年生の大学生活に関する知識が少なかったので、ゼミ選択などが行き当たりばったりになる人が多くなってしまふのではと感じた。なので、1年生の初めの頃に今以上にしっかりと説明した方がいいのではと思いました。
- ・就職に強みのない人文学部ではポテンシャル採用を目指すということがわかった
- ・生徒同士の話し合いの場所が欲しい
- ・大学職員の方々の学生への接し方が両極端だという印象を受けました。1人はほとんど話さず、1人はリードしていただける分その人の意見に寄りすぎた気がしました。また学生内でも、やる気の全くない人ある人がいたので意見の出方に偏ってしまうなど感じました。

- ・大学の制度設計から問題があり、高校生の受験の時点でなりたい職業を決定させる方が危ないのではないか。
- ・大学では様々なことを経験することが重要である
- ・先輩が、情報収集能力が大切だと言っていたこと
- ・4年生の先輩から大学の4年間のだいたいの流れや、やっといの方が良いことなどを教えていただいたこと。
- ・教育学部と医学部は教員、医者など入学時から決められたレールの上に行く人が多いので、それに縛られない考えを持つこと、また学生がもっと幅広く将来を考えられるように三重大の学部選択の仕組みを変えるべきだ、という話。
- ・なんのために大学に入ったのか、モヤモヤしていた気持ちでしたが、段階を踏んでこれからいろんなことに取り組んでいけばいいという前向きな気持ちになりました。
- ・同じグループでご一緒させていただきました上級生の方が、とても上手に話し合いを進めてくださいました。ご自分の経験をもとにして提案して頂いて、私も何年か後にはああいっただけの言動がとれるようになりたいと感じました。
- ・デザイン案で、ケーキが出てきたこと。
- ・今回のサミットのような企画に参加すれば、より自分のキャリアを考えるきっかけができる。
- ・社会に出て、必要な能力について話をしたことです。自分が必要と考えること以外にも意見が出たことで、他者から見たら違う能力が必要なのかと感じました。
- ・教育学部の子達でも将来先生になるかはわからないと言う子が多くて、キャリアを考える難しさを感じた。

○ 感想など

- ・名前をもっと親しみやすいものにするべきだと思う
- ・学生の意見がストレートに教職員や学長に届けられる貴重な機会なので参加できて良かったです。
- ・今後も続いてほしい取り組みです。
- ・勉強になりました。
- ・サミット後の懇親会で話をさらに交流する
- ・初めて学生支援サミットに参加させて頂きましたが、自分の大学生活を振り返るいい機会になったと思います。また、1年生にとっては就職活動が終わった直後の4年生の生の声が聞けるのでいい機会になったのではと思いました。
- ・四年生との将来についての会話の場を設けていただけたのが一番良かったです
- ・やはり縦の繋がりは大切だと感じました。自分の将来のイメージが少しだけ明確になりました。サミットに参加してよかったです。
- ・全員がどのような経緯で参加したのかが気になった

- ・いろいろな学部の人や先生と議論できる機会だったのでとてもおもしろかったです。また、参加したいと思いました。
- ・今回のサミットで教職員の方や学部生の方のお話を聞いて、大変勉強になった部分が多くありました。今後も大学活性化のためにこのようなイベントに積極的に参加したいと思います。大変よい機会をいただき誠にありがとうございました。
- ・先輩と仲良くなれて楽しかったです。
- ・大学生活について、今までなんとなくしか分かっていなかったことが少し明確にすることができたとてもいい機会でした。こういった機会が学生のもっと身近にあるといいなと思いました。
- ・想像以上に面白かったです。またこのようなイベントをやって欲しいです。
- ・ご自身の、少し偏っている(と私が感じる)持論(教育学部の学生は本来みんな先生にならないといけない、先生にならないつもりの方は来ないで欲しい、など)を何度も主張してくる教職員の方がグループにいて話し合いがしづらかったです。そういう考えはある意味正しいと思いますが、学生が自由に幅広くキャリア形成を考える、という今回のような機会ではあまり言うべきではないのでは、と戸惑いを感じ、また、聞いていて気分がよくありませんでした。
- ・四年生の先輩方や、教員の方々と話すことができ、今までの不安の解消や、新たな考えが生まれるのを実感し、参加して良かったと思います。ありがとうございました。
- ・とてもいい機会になりました！やる気に満ち満ちています！何事にもがんばろうという気持ちになれました😊行ってよかったです！
- ・途中までしか居られませんでした。色々な話を聞いたり普段話さないような立場の人たちの考えも聞いて楽しかったです。作った模造紙が、後で見られると嬉しいです。
- ・教員と、他学部の方と混ざって話すことができよかったです。お菓子やカフェの提供も嬉しかった。今回のお題だったからこそ参加したいと思った。
- ・自分の考えを伝えることは、初対面の方のほうの方が楽だと思いました。普段は友達と真面目な話をするのが少ないので、自分が発言するたびに、「自分はこういう考えを持っていたのか」と驚きました。自分探し＝キャリアを考えることは割と楽しいなあと思い、このサミットに参加して本当によかったと1週間たった今日も考えました。企画していただき、ありがとうございました！
- ・普段会話をしないような方とディスカッションをできたことは、良い機会になりました。
- ・自分では、考えつかないような考えを聞いたことは、今後のキャリアにプラスになりそうです。

○ 学生支援サミットで今後取り上げてほしいテーマ

- ・ 講義の質の向上について（分かりやすさ、楽しさが低いから）
- ・ 学年や学部、部活やサークルを交えた交流の機会
ex)運動会、演奏会、など
- ・ 授業について
- ・ 大学生の政治参加(選挙に興味を持つには／自分の意見にあう候補者を選ぶには／不在者投票制度を活用するには 等)
- ・ 学生同士の関係が希薄な件について
- ・ 交通マナー(どれだけ周りを見ることができるか、思いやりを持った行動ができるか等々)
- ・ 大学生にどのような資質が求められるのか。
- ・ 地域で必要とされる大学になるためには
- ・ 生徒主体の授業
- ・ 今年のテーマ、とても興味深い内容でした。ほかには、(衛生)環境とかいかがでしょうか.....
- ・ 大学受験中は必死に努力し、入学したら遊びほうけるという流れで良いのか

7. 資料

- 学生支援サミット 2019 ポスター
- 表彰状
- 三重大学ホームページ トピックス掲載記事

学生支援サミット2019

～三重大大学をかけ抜けて「自分」をつくるために～

テーマ：「社会で活躍する三重大生のキャリア発達」

今年度は、『社会で活躍する三重大生のキャリア発達』をテーマに、学生・教員・職員が協働しながら今後の三重大生のよりよいキャリア発達とその実現におけた方法についてディスカッションをしていきます。

社会の中で活躍する「自分」をつくるために必要な要素やその発達プロセスを本サミットで検討することを通して、三重大生のキャリア発達をモデル化した『三重大大学キャリアパスモデル(仮称)』を創造する機会とします。



日時 2019年7月3日(水)

13:30～16:00

場所 三重大大学講堂 小ホール



普段接点のない学生や教職員の方々と話したい、何か大学に役立つ体験や活動を行ってみたいという学生または教職員の方々、ぜひ積極的なご参加をお願いいたします。

お問い合わせ先

三重大大学 学生総合支援センター (担当:風間)

TEL : 059-231-6262

MAIL : junki.kazama@mie-u.ac.jp

参加をご希望される方は、下記のURL
またはQRコード先の参加申込フォームからお申込みください。

URL :

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdR4Z2k6EPB55uHufO-m-WOsQSV-MXnhA4MzK-BU8RzsoTylQ/viewform?vc=0&c=0&w=1>

参加者
募集



主催：三重大大学 学生総合支援センター



学生支援サミット 2019

「ベストグループ賞」

殿

貴方は三重大学学生総合支援センター主催の学生支援サミット 2019において、三重大学の発展に寄与する素晴らしいグループ発表を行いましたので、これを賞します。

令和 元年 7月 3日

三重大学学生総合支援センター

センター長 野崎 哲哉



学生支援サミット 2019～三重大学を かけ抜けて「自分」をつくるために～ を開催しました

2019年07月08日

7月3日（水）、三重大学講堂 小ホールにおいて、「学生支援サミット 2019～三重大学を
かけ抜けて『自分』をつくるために～」を開催しました。



本サミットは、学生・教員・職員が協働しながらディスカッションを行い、より良い三重大学となるよう考えていく貴重な機会として、学生総合支援センター主催で毎年開催されているイベントです。本年度は「社会で活躍する三重大生のキャリア発達」をテーマに、学生・教職員合わせて約90名が参加し、学生総合支援センター風間惇希講師の進行のもとサミットが行われました。



冒頭、駒田美弘学長から「キャリア発達についての話し合いで、今後より三重大学生の活躍が増えることを期待しています。」と開会の挨拶がありました。



また、風間講師より学生支援サミットの概要説明と今回のテーマである「社会で活躍する三重大生のキャリア発達」についての説明がありました。

続いて、学生・教職員を交えた10グループに分かれて、キャリアパスモデルについてワークショップが行われました。自分たちがなりたい姿＝キャリアについて、参加者それぞれが意見を交わし、そのためには大学生活で何が必要か、話し合いが行われました。



会場内ではカフェサークル「Le Lien」のコーヒー・紅茶も振舞われ、和気あいあいとした雰囲気の中で、実体験なども加えた活発な話し合いが行われている様子でした。



その後、キャリア発達について各グループの意見と大学に求めることについて、木の絵や鳥が卵から成長していく図などを用いて、それぞれ個性溢れるポスター発表が行われました。「社会に出た際に必要なコミュニケーション能力や経験を積むために、大学での縦のつながりを形成する機会やグループワークなどの機会を設けてほしい。」「社会で活躍す

るために学部学科に関係なく多様な授業を受講できるようになってほしい。」などキャリア形成に向けて、大学に求めるさまざまな意見が発表されました。



発表後には参加者投票により、「ベストグループ」が選ばれ、表彰が行われました。



最後に野崎哲哉副学長（学生総合支援担当）から「三重大学生のみなさんには、社会の著しい変化の中でも活躍できる力をつけていただきたいので、在学中にさまざまなことにチャレンジができる機会を学生のみなさんと一緒に考えていきたい」と閉会の挨拶がありました。

今後の進展が期待される有意義なサミットとなりました。

編集：三重大学 学生総合支援センター

